

大麦栽培情報

【ファイバースノウ・はねうまもち】

JA福井県
【福井基幹支店】

～ 更なる収量アップを目指して！！ ～

● 万全の排水対策と適期播種を行いましょう!!

圃場準備と播種のポイント



1. 土づくり：好適PH6.0～6.5

大麦の健全な生育には土づくりが必要です。土壌改良材を施用し適正なPHに矯正しましょう。
「石灰質資材(ケイカル等)」200kg/10a、または、「マグエース」100kg/10a

2. 播種：適期播種10月10～20日ごろ

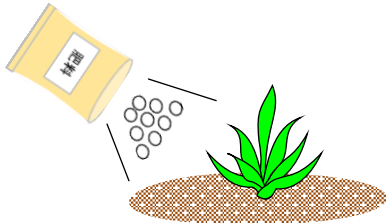
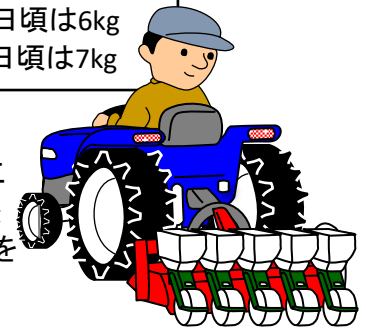
土壌水分条件の良いときに、丁寧な作業を!! 播種は、「10月10日～20日」頃が適期です。「圃場が乾いた状態で」行います。「早播き」は、「茎数過剰」や「初冬～早春の肥切れ」を招き収量や品質の面でマイナス要因になるので極力控えましょう。

- 土壌水分の高い圃場を無理やり耕起し播種しても、出芽率が低く上手く育ちません。やむを得ず播種する場合は、「条播」よりも「散播」をしましょう。

- 播種量「条播」:6～7kg/10a
- 播種時期:10月10日頃は6kg
20日頃は7kg

3. 施肥：年内に肥料切れをさせない！！

年内に「肥料切れ」しないように、施肥設計をしましょう。年内に「肥料切れ」を起こして「黄化」すると、茎数確保ができず極端に減収します。『基肥一発肥料』は、緩効性肥料により、年内の「肥料切れ」を防ぎ収量・品質が安定します。また、追肥を散布する必要がなく省力化が図れます。



施肥体系	基 肥	基肥	年内追肥
基肥一発	大麦マスター	35kg	なし
分施	アグリフラッシュ	40kg	20kg

4. 除草剤：雑草に負けない！！

雑草が繁茂すると肥料のほとんどが雑草にとられてしまい、収量が減ります。ガレースは「スズメノカタビラ」や「タネツケバナなどの広葉雑草」に、ハーモニーは「スズメノテッポウ」に、効果があります。

- 分施(基肥・追肥・穂肥の施用)の場合は、11月中旬～下旬にかけて年内追肥を必ず実施しましょう。

資材区分	薬剤名	使用量	備考
細粒剤	ハーモニー細粒剤F	4～5kg	播種後～麦3葉期
粒剤	ガレースG粒剤		播種後発芽前(雑草発生前)
細粒剤	キックボクサー細粒剤F	3～4kg	播種後発芽前(雑草発生前)
乳剤	トレファノサイド乳剤	200～300ml	播種後発芽前
	ボクサー乳剤	400～500ml	播種後～麦2葉期
水和剤	ハーモニー75DF水和剤	5～10g	播種後～節間伸長前

- 除草剤を2回使用する場合は、使用基準に制限があります。使用前にJA・農林総合事務所にご相談下さい。
※大麦を「散播」した直後の粒剤除草剤は、ハーモニー細粒剤Fだけです。

適正播種で収量アップを目指しましょう。大麦栽培情報は『文殊支店』が担当しました。